

# 音楽科学習指導案（2年生）

## 1 題材名 表現の工夫をし、リズムアンサンブルを楽しもう

教材名 クラッピングラブソディ 第1番 長谷部匡俊作曲

## 2 題材設定の理由

**<題材について>** 本題材は、平成29年告示の学習指導要領のA表現 器楽ウ（イ）「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせ演奏する技能」を身に付けさせるものである。本楽曲は、旋律に合わせて奏でる手拍子アンサンブルである。4分の4拍子で、4分音符・休符、8分音符・休符のみで構成されている。リズムは繰り返しが多く、それぞれのパートは順番を入れ替えて同じリズムパターンで構成されている。□は各パートのソロで、手拍子2は手拍子1のリズムを反復している。速度は ♩ = 120～132（1分間に4分音符を120～132回打つ速さ）と比較的速いが、馴染みやすいテンポ感である。これらのことより、全体的に難易度は高くなく、比較的早い段階でリズムの習得が可能であると考ええる。また、強弱記号は曲の冒頭に f（フォルテ）1つ、音楽記号は >（アクセント）1つである。したがって、学習者のイメージをもとにオリジナルのものを付け加えることができる。そして、手拍子は合わせ方や強さによって音色や響きが変わってくるため、イメージをもとに表現の工夫をしやすい。以上のことから、学習者にとって取り組みやすく、自分たちのイメージをもとに曲にふさわしい表現を工夫させることができる楽曲であると考ええる。

**<学習者について>** 学習者は、楽典を中心に音符の名前や長さを学習し理解してきた。しかし、机上の理解だけに終わり、学んだ知識が技能に結びついていない。読譜は小学校での既習事項ではあるものの、実際に演奏する際には、耳から覚えたものを再現している学習者がほとんどであると感じた。例えばアルトリコーダーの楽曲では、知っている曲は音階さえ読めれば演奏できたが、知らない曲においては自力で演奏までたどり着いた学習者は38人中4人であった。楽典の知識を技能に結びつけるためには読譜が不可欠であると考えられるため、まず音階読みとリズム読みに分けて取り組んだ。リズム読みでは、徐々に難易度があがる4小節の曲を10曲プリントにし、個人でパフォーマンステストに挑戦した。読譜ができることにより、細かい音符や休符も正確に演奏することができるようになると考える。それらの過程を経ることにより全員のリズムがそろい、曲の盛り上がり表現することによって、アンサンブルの楽しさを表現できると考える。

**<指導・「問い」の工夫について>** リズムアンサンブルを通して、読譜の力をつけたいと考えている。読譜ができるようになると、正確な演奏や歌唱ができるようになり、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組めると考える。また、他者とのアンサンブルも細かなところまで理解することによって、スムーズに合わせたり、より深い表現にするための練習方法を工夫したりすることができる。読譜ができることや様々な工夫を凝らした練習方法を取り入れることで、音楽の全ての分野において役に立つと考える。

### 「問い」の工夫Ⅰ

学習者とともにループリックを作成し共有する。ループリックを用い、録画録音し客観的に聴くことで、自らの学習状況を把握したり、相互評価したりしやすい。学習者と指導者の評価を共有することによって、主体的な学習につなげる。

### 「問い」の工夫Ⅱ

ループリックと照らし合わせながら、現状を把握し課題を見つける。課題解決に向けて練習方法を工夫し、自らの学習を調整させるとともに、繰り返し練習する中で技能を身に付けていく。

## 3 題材の目標

- (1)「クラッピングラブソディ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。【知識・技能】
- (2)「クラッピングラブソディ」の速度、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現を工夫する。【思考・判断・表現】
- (3)「クラッピングラブソディ」の曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的にリズムアンサンブルの学習活動に取り組み、音楽に親しんでいく態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b> 速度、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように練習するかや演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。</p> <p>(様々な練習方法を試したり、繰り返し粘り強く練習したりと、自らの学習を調整しようとしている。)</p>

#### 5 題材全体の主な学習内容と評価の位置付け

題材全体の学習指導		評価の位置付け			
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象			評価の回数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読譜をし、両パートとも演奏する。</li> <li>・曲の特徴を捉える。</li> <li>・班で練習し、アンサンブルの課題を出す。</li> </ul>	<p><b>知</b> 曲想と音楽の構造との関わりを理解&lt;ワークシートI&gt;</p>			1
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で出された課題をもとに、3つの観点においてどのようなアンサンブルが良いか、良くないかを個人で考え、班でまとめ、全体で共有する。</li> </ul>		<p><b>思</b> 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく演奏表現の創意工夫&lt;ワークシートII&gt;</p>		1
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ループリックを学習者と共に作成し、共有する。</li> <li>・班ごとに練習をし、録音をする。</li> <li>・録音を聴き、ループリックと照らし合わせ現状を知り、良かった点・課題点について自分の考えを書き班で共有する。</li> <li>・効果的な練習方法について考える。(個人)</li> <li>・これからどのようなアンサンブルにしたいか、思いやイメージを書く。</li> </ul>		<p><b>思</b> 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく練習方法の創意工夫&lt;観察・ワークシートIII&gt;</p>		1
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り、ループリックと照らし合わせ現状を知り、本時の目標を決める。</li> <li>・前時に出された練習方法を使って、効果について検討したり、何度も繰り返し練習したりする。</li> </ul>			<p><b>態</b> 学習活動に対する主体的・協働的な取組&lt;ワークシートIV&gt;</p>	1
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音と練習を繰り返し、表現を深める。</li> <li>・班ごとにテストをし、アドバイスをする。</li> </ul>	<p><b>技</b> 創意工夫を生かして演奏する技能&lt;観察・録画&gt;</p>	<p><b>思</b> 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく練習方法の創意工夫&lt;観察・ワークシートV&gt;</p>		2
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会を通して、今まで練習してきた成果を発揮する。</li> <li>・他の班の演奏を聴き、創意工夫している点を見つける。</li> <li>・題材全体の学習の振り返りをする。</li> </ul>			<p><b>態</b> 学習活動に対する主体的・協働的な取組&lt;観察・ワークシートVI&gt;</p>	1

6 「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイントと「努力を要する」状況（C）と判断されそうな学習者への働きかけ例

観点	評価基準	＜評価方法＞	
		「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント	
		「努力を要する」状況（C）と判断されそうな学習者への働きかけの例	
知識・技能	知	<p>&lt;ワークシートⅠ&gt; 感じ取った曲の特徴について、速度、音楽記号、強弱記号、音符の種類、構成などについて着目し書いているか。</p> <p>楽譜を見て、様々な記号に印をつけさせる。その後、参考資料（学習者が持っているもの）を使い、意味や働きを確認させ、対話しながら特徴に気づけるようにする。</p>	<p>&lt;観察・録画をみる&gt; 正確なリズムや速度、アクセントをつけて演奏する技能、各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能について、練習の成果が出ているか。</p> <p>学習者とともに出来ない所を何度も練習する。拍を感じさせたり、休符が拍のどの位置に来るのかを説明させたりしながら気づかせるようにする。アクセントをつけるための手の動きなどを繰り返し練習させる。</p>
	思	<p>&lt;観察&gt; 曲にふさわしい練習方法を追求する場面においてどのような方法が効果的か発言したり演奏に表そうとしたりしているか。</p> <p>&lt;ワークシートⅡ&gt; 曲にふさわしい演奏について、楽譜に書かれてあることを読み取ったり、今までの経験等を踏まえてイメージをしっかりともったりすることができているか。</p> <p>&lt;ワークシートⅢ&gt; 互いに聴き合ったり録音を聴いたりしながら、アンサンブルにおける課題点を見つけ出し、さらに良い演奏にするためにどのようにすればよいか自分なりの思いや意図を書いているか。</p> <p>&lt;ワークシートⅤ&gt; 「表現する」や「音色」について、オリジナルのアイデアを書き、さらに良い演奏にするためにどのようにすれば良いか自分なりの思いや意図を書いているか。</p> <p>実際に何種類かの練習方法を提示し試させる中で、どの方法が良いと思うかやその理由について対話しながら考えさせる。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	態	<p>&lt;観察&gt; 曲想や音の重なり方に関心をもち、自分が知覚・感受したことや他者の気づきなどを基に、どのように演奏するかについて考えたり他者とともに練習したりしようとしている様子が、本題材の学習を通じて見て取れたか。</p> <p>&lt;ワークシートⅣ&gt; どんな練習方法をどのように実践（回数や具体的な方法）したのか、またその成果や改善したいことを書いているか。そこから粘り強さや繰り返し練習した様子が見受けられるか。（B）</p> <p>※B+本時の自分の姿から次への目標を見出し、仲間と合わせる楽しさや喜びを感じている様子が見受けられるか。（A）</p> <p>&lt;ワークシートⅥ&gt; 学習全体を振り返って、自分の練習や他者との関わり、他の班の演奏について、授業での学習内容を踏まえて書いているか。</p> <p>班の中でテンポ感が異なっていたり、曲想を全く意識していないような音楽記号を付けたったりした演奏を聴かせ、そのことによって感じる違和感などについて対話し、テンポ感とそれらがアンサンブルにどのように関わってくるのか、また音楽を形づくっている要素の働きなどについて興味をもてるようにする。</p>	

7 本時の指導

- (1) 題材 表現の工夫をし、アンサンブルを楽しもう
- (2) ねらい 演奏した曲の現状を把握することで、本時の目標を定め、効果的な練習方法を考え繰り返し試す活動を通して、主体的で協働的に練習することができる。
- (3) 本時における「問い」の工夫
  - ルーブリックをもとに、録音を聴いたり前時を振り返ったりすることで、現状を把握し目標を定める（Ⅰ）
  - 様々な練習方法を試すなど繰り返し試行錯誤する中で、自らの学習を調整させる（Ⅱ）

(4) 展開

学 習 活 動	時	指 導	期待される学習者の反応	評価 ・ 備考
1. 曲に合わせて全員で演奏する。	2	○前時までに練習した成果を発揮できるよう振り返り演奏させる。	○楽譜をしっかりと見たり、旋律を聴き、テンポ感を意識したりしながら演奏している。	
2. 本時の流れとめあてを確認する。	3	○前時までを振り返り、練習方法を工夫しながら、繰り返し練習することを確認させる。		
めあて：「合わせる」に着目し、効果的な練習方法を見つけ、繰り返し練習しよう。				
ループリックを活用し、現状把握と目標を定める。				
3. ループリックを見ながら、前時を振り返り、練習方法を考える。	8	○前時の振り返りをもとに本時の自分のめあてを立てる。 ○班で意見の交流をし、練習方法を考える。	○自分で考えた練習方法を相手にしっかりと伝えようとしている。 ○他の学習者の意見を聞き、課題解決をしようと共に考えることができている。	
自分や班で考えた練習方法を試しながら、繰り返し練習をする。				
4. 班で練習をする。	22	○自分や班で考えた練習方法を試す。(練習の中で新しいものを試すこともある) ※練習方法に苦戦している場合は、教師がヒントを出す。(前時に出示された練習方法から示す) (○録音⇄練習させる。) ○練習方法を変えたり繰り返したりして表現を深めさせる。	○班で声をかけ合いながら、主体的・協働的に練習を繰り返している。	
5. 交流する。	10	○班の中で一番良かったと思う練習方法を決める。 ○理由と共に全体に交流し伝える。	○自分の考えた練習方法や班で試した練習方法と比べてどうだったか、考えや思いをもつことができる。	
5. 本時を振り返る。	5	○めあてに向けてどのような工夫をしたか、上手くいったことや、次回に活かしたいことについてまとめさせる。	○練習方法の工夫はどうだったのか、これからどのような練習や工夫が必要かについて考えをもっている。	
<p>期待される振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休符への意識を高めると、やはり短くとっていたので、メトロノームを聴きながら練習した。そうすると、しっかりと休符を感じることができ、徐々に合い周りを聴く余裕ができた。Dの部分が一番の見せ所だと思っているのもっと工夫をしたい。相手に伝わる演奏をするために、表情を明るくしたり身体をリズムに乗せて揺らしたりしながら、班で楽しんで表現したい。(A)</li> <li>・メトロノームを使うと速さも合い、相手のパートも聴けるようになってきたと思う。何度も繰り返し練習することはとても大切であると感じた。手のたたくスピードや強さにこだわり練習したい。(B)</li> <li>・だんだんと合うようになってきたのでよかった。一人一人が上達すればできるようになると思った。(C)</li> </ul>				

態

- ・ワークシート
- ・ICT 機器
- ・ICT 機器
- ・楽譜
- ・キーボード
- ・メトロノーム